

企業力アップに『知の工場』の活用を。

研究開発のコストを低減してスキルアップ、さらに商品化へのスピードを早めて国際競争力のある企業に。大学の知・技術・施設・人的資産が役立ちます。

企業力アップをめざす産業界

- > 要素技術で困っている
- > 技術のブレークスルーをはかりたい
- > 新技術での商品の差別化をはかりたい
- > R&D のアウトソーシングをはかりたい
- > ビジネスシーズを発見したい
- > 異業種交流をはかりたい

相互活用

電気通信大学産学官連携センターが実践する『知の工場』の成果活用

- > 社会のお役に立ちたい
- > 保有技術、大学特許を生かしたい
- > 研究成果を企業に役立たせたい
- > ベンチャー企業を育成したい
- > 研究の多様性に価値を拡大したい
- > 学生に企業マインドを持たせたい

活動の内容と入会のお勧め

電気通信大学産学官連携センター事業協力会は、電気通信大学産学官連携センターの目的とポリシーに沿って、会員の皆様と大学のパイプ役として、大学と企業が共に栄える基盤作りを支援する組織です。大学と企業との相互協力により、企業にとっては多大な設備投資や人的投資をせずに開発のスピードアップやビジネスチャンスの拡大ができ、大学にとっては有益な研究や技術の研鑽、蓄積が図れます。相互のメリットを最大限に活かせるように、研究開発のさまざまなプロセスや新規の取り組みに、大学との連携や共同研究等をお考えでしたら、ぜひご入会下さい。

電気通信大学産学官連携センターの目的

電気通信大学はエレクトロニクス、マルチメディア情報通信、コンピュータ、メカトロニクス、知能ロボット、バイオテクノロジー、レーザーと光技術、新素材などを中心とする先端科学技術の分野で優れた業績を持つ多数の教官、研究者を擁しています。理工学から人文社会まで300余名の教官がそれぞれ専門分野に関して共同研究に参加する体制をとっています。大学は「知の工場」であり、知の創出（研究）と知の伝承（教育）の源泉です。工場で生産された「知」を活用・実践し、外部資金を獲得して「知の創造サイクル」を回すことを戦略的に考え、社会に貢献します。

UEC「知の工場」の成果物

研究成果の活用

共同研究・受託研究の活性化、大学発ベンチャーの輩出

知的財産の活用

研究者の成果の特許化、技術移転

学生への付加価値の付与

専門知識に加えて、チャレンジ精神、コミュニケーション能力を付加するキャリア教育の推進

知の創造サイクル

社会
産業

産学官連携センターの特徴

- 豊富な教授陣
- 幅広い分野でのセミナー・論文等の情報公開
- 利用可能な大型設備保有
- 先端的産学共同研究の実績が豊富
- TAMA 産業活性化協議会とのタイアップ
- TLO（株式会社キャンパスクリエイト）との協力

会員へのサービス

- 全会員へ、定期的な資料等をお送りします。
- 個人会員は、産学官連携センターと共催する講習会・セミナー等に無料で参加できます。法人会員は3名までが無料で参加できます。
- 法人会員へは、参加されなかった講習会・セミナー等で配布された資料一部を後日お送りします。

電気通信大学産学官連携ポリシー

- 本学（電気通信大学）の理念に基づき、本学の資源と学外の資源の融合による新たな知の創出と活用を戦略的かつ効率的に推進することにより、我が国の産業社会の発展に貢献する。
- 企業等との包括的な連携やインターンシップ推進などの産学官交流を通じた実践的な教育を通して、社会の発展に大きく貢献できる人材を育成する。
- 学術研究成果を産業界等に積極的に技術移転することを通じ、本学における教育と研究の社会的付加価値を高める。
- 共同研究の実施、技術相談などによる産業界との持続的な連携を効果的に推進する。
- 企業等との包括的な連携や研究成果を基にしたベンチャー企業創出を支援し、新産業の創出に寄与する。
- 地域社会における知的活動の中心的拠点として、本学の有する知的資源を地域社会に還元するとともに、連携・交流を推進することにより、地域社会の発展に貢献する。
- 産学官連携活動の推進を図るため、本学のTLO（株式会社キャンパスクリエイト）、同窓会（社団法人目黒会）と連携・協力する。